



Title	懷徳 第54号 彙報 / 奥付
Author(s)	
Citation	懷徳. 1985, 54, p. 122-124
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90654
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

彙報

(記念会)

事業報告

。「懷徳堂絵はがき」第三集 昭和六十年三月刊行(友の会と共同刊行)。泉治筆・中井覺庵賛「墨菊図」、中井竹山書「懷徳堂壁書(寅八月定)」、都関月筆・中井履軒賛(中井天生写)「採蓮図」、中井履軒撰・中井袖園書「聖賢扇」の四枚一組である。

。昭和六十年春季講座

大阪大学文学部並びに大阪府立文化情報センターとの共催で、同センターを会場に、五月二十日(月)より二十五日(土)まで開催。月々金は午後六時半、土は午後二時半より、各日二時間の講演が行なわれ、大阪の町をテーマにしただけあって、連日二百名近くの聴講者があつた。

〈大阪の町々―歴史の舞台として〉

上町台地のあけぼの―原始時代の大阪―

大阪大学 都出比呂志

天王寺と渡辺―中世の大阪

大阪女子大学 田中 文英

船場

大阪大学 宮本 又郎

道頓堀

大阪大学 脇田 修

堂島

奈良教育大学 本城 正徳

川口居留地―文明開化のおおさか― 仏教大学 梅溪 昇
。昭和六十年秋季講座

大阪大学文学部・大阪府立文化情報センターと共催。十月二十一日(月)より二十六日(土)まで同センターにて開催された。当講座に新風をということ、現代芸術をテーマにしたところ、若い聴講者が多くなり、ビデオや音楽テープを用いての多面的な講演に熱心に耳を傾けていた。

〈現代芸術の世界〉

抽象芸術は何をめざすか

大阪大学 神林 恒道

新たな自然を求めて―オブジェの問題―

京都市立芸術大学 岩城 見一

記号化する現代と芸術 西宮市大谷記念美術館 出川 哲朗

大衆化する芸術のなかで―小説と映画の場合―

大阪芸術大学 源 高根

ポップ・アート―俗物の芸術―

大手前女子大学 太田 喬夫

工業化時代の技術と芸術 京都市立芸術大学 潮江 宏三

芸術作品におけるオリジナルとコピー

大阪大学 森谷 宇一

ビデオ・アートの現在

九州芸術工科大学 吉積 健

演劇からパフォーマンスへ

神戸学院女子短期大学 上倉 庸敬

現代音楽に何をきくか 関西学院大学 畑 道也

役員動静

○昭和六十年十月二十九日、理事堀田庄三、上野淳一、宮本文次、山村雄一の四氏任期満了。堀田、上野、宮本の三氏は十月三十日付で重任。山村氏は退任。

会務報告

昭和六十年四月十九日、懷徳堂記念会理事会・評議會を住友銀行本店會議室にて開催。堀田庄三理事長の司会のもと、次の案件について審議が行なわれ、いずれも原案通り承認された。

昭和五十九年度事業報告並びに決算について
役員人事について（理事四名の改選、評議員一名の交替について）

昭和六十年、度事業計画並びに予算案について
なお、出席は堀田庄三、上野淳一、黒田俊雄、弘世現、松下幸之助（代理）、宮本文次、山村雄一、片山良展、加地伸行、信多純一、時野谷勝、日比野丈夫、宮地裕、山田稔、若槻哲雄、脇田修、佐野喬、本間道雄の計十八名であった。

（友の会）

事業報告

。懷徳堂忌（第二回）

昭和六十年三月二十四日、誓願寺（大阪市南区上本町）にて開催。午後一時半より、山中昌弘住職によって法要が営まれた。二時より講演。「懷徳堂に寄与した尼崎屋一族」関西大

学・肥田階三氏。約五十名が参加した。

。「懷徳堂絵はがき」第三集

昭和六十年三月、記念会と共同刊行。

。「懷徳堂・友の会だより」

第七号は昭和六十年四月、第八号は同九月に発行。

。懷徳堂古典講座（古典を読む会）

昭和六十年六月より十二月（十月を除く）まで、好文倶楽部（大阪市北区梅田）にて開催。午後六時より七時半。受講料は各コース六回で二千元（会員外三千元）。定員百名のところ、それぞれ八十名から百名の申し込みがあった。

「論語」六月三日・七月一日・八月五日・九月二日・十月五日・十二月二日。講師は加地伸行氏と岸田知子氏。

「源氏物語」の成立とその周辺」六月十日・七月八日・八月十二日・九月九日・十一月十一日・十二月九日。講師は伊井春樹氏。

「唐詩選読」六月十七日・七月十五日・八月十九日・九月十七日・十一月十八日・十二月十六日。講師は黒川洋一氏。

。資料収集

並河寒泉文庫（自筆本を中心とする）百三十点。

「新造学校観光院図」一点。

いずれも当会より大阪大学へ寄贈された。

。見学会

第三回、昭和六十年三月二十四日、午後三時より五時まで、誓願寺から寺町周辺の歴史散歩。講師は矢内昭氏。参加四十五名。

第四回、昭和六十年十一月十日、午後一時より五時まで、上本町ターミナル整備計画の説明を聞き、周辺を見学した後、生玉、寺町周辺を歩き、四天王寺を見学した。講師は矢内昭氏。参加四十名。

・展覧会準備事業

昭和六十一年三月に開催される「懷徳堂展」（大阪市立博物館・懷徳堂記念会・懷徳堂友の会主催）に向けて、在外資料の現地調査が市立博物館と協力して行なわれた。また列品予定資料の補修も行なわれた。

役員動靜

・昭和六十年四月一日、協議員の山中永之佑、三川礼、水村博昭の三氏退任に伴い、石井久夫、大久保昌一、後藤稠の三氏、協議員に就任。運営委員斯波義信、武田恒夫、宮地裕、矢守一彦、吉田孝の五氏退任。合阪学、大村元有、柏木隆雄、神林恒道、塚崎智、松下武義、脇田修の六氏、運営委員に就任。
・八月二十六日、山村雄一協議員退任に伴い、熊谷信昭氏、協議員に就任。
・七月二十一日、畠中道雄協議員退任に伴い、新開陽一氏、協議員に就任。

会務報告

・昭和六十年二月二十六日、運営委員会をダイキン工業本社にて開催。協議会・監事会に提出する議案を作成検討した。
・四月十九日、協議会・監事会を住友銀行本店会議室で開催。

弘世会長を議長として、次の事項について審議を行ない、いずれも原案通り承認された。

会則の一部改正について（運営委員会の増員他一件）

役員人事について（役員の選任、運営委員の改選について）

昭和五十九年度事業報告並びに決算について

昭和六十年度事業計画並びに予算案について

会員募集の進め方について

新収資料の報告と大阪大学への寄贈について

なお、出席は弘世現会長、山田稔副会長、黒田俊雄副会長のほか、佐治敬三（代理）、鈴木敬、堀内宏昭、宮本又次、山下俊彦（代理）、山村雄一の協議員六名、小松康（代理）監事一名、計十名。運営委員八名および堀田庄三懷徳堂記念会理事長が陪席した。

（岸田記）

昭和六十年十二月二十五日発行

懷 徳 第五四号

560 豊中市待兼山町一―一 大阪大学文学部内
編集 發行 懷 徳 堂 記 念 会
編集責任者・黒 田 俊 雄

600 京都市下京区中堂寺鍵田町二
印刷 株式会社 印刷 同 朋 舎